平成30年度全国及び岡山県学力・学習状況調査　結果と今後の取組について【学校版：様式】

津山市立院庄小学校

今年度の指導の重点

◎心と体をきたえ，学びあう児童の育成
　○すすんで学ぶ子（進んで学習に取り組み，学びあいで考えを深めあう子）
　○やさしい子（仲間と協力し，互いに支えあう子）
　○やりぬく子（どんなことでも最後までやり抜く粘り強い子）
★確かな学力の育成
　○わかりやすい授業づくり・学習習慣の定着・読書100冊・言語活動の充実
　○めあてとふりかえり・ペアグループによる学びあい
　○朝学習での学習習慣の定着と基礎学力の向上

津山っ子の学びを高める　”3つの提案”　6つの取組

□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している	当初【　B　】	年度末【　　】
□授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している	当初【　B　】	年度末【　　】
□言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている	当初【　B　】	年度末【　　】
□学習のねらいに応じてＩＣＴ活用等による多様な学習を工夫している	当初【　A　】	年度末【　　】
□授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している	当初【　C　】	年度末【　　】
□家庭地域と共に育てるためにＨＰや通信等で発信している	当初【　A　】	年度末【　　】

※達成度　「S：目標を大きく上回った（100%超）」「A：目標を十分達成できた（85%以上100%未満）」
「B：目標を概ね達成できた（70%以上85%未満）「C：目標をある程度達成できた（50%以上70%未満）」
「D：目標をあまり達成できなかった（30%以上50%未満）」「E：目標を達成できなかった（30%未満）」

調査結果について（調査結果において明らかになったこと）

【学力状況調査の結果】
全国（6年生）
○国語A・Bともに県平均をやや下回った。A：漢字を書く問題では，県平均よりかなり高い正答率の問題があった。慣用句の使い方についても，県平均と同程度であったが，敬語を使う問題は県平均より下回った。B：文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながら読む問題では，県平均を大きく上回った。（本校61．3　県51．9）話し手の意図を捉えながら聞き，自分の考えをまとめる問題では，県平均を下回った。（本校12．9　県33．7）
○算数A・Bは，県平均と同程度である。A：全体的に県平均をやや上回っている。百分率の問題（本校64．5　県50．5）単位量当たりの大きさを求める問題（本校61．3　県49．0）は，特に県平均を上回った。分度器を使った計測は，県平均を下回った。（本校48．4　県59．9）B：県平均を上回る問題が多かった。示された考え方を解釈し，条件に合う時間を判断することができる問題に課題があった。
○理科については，県平均をやや下回った。水の働きを表す言葉を選ぶ問題，電流の流れ方について結果を見通して実験を構想できる問題は，やや上回った。しかし，実験結果を記述式で答える問題に課題があった。
県（3～5年生）
○3年生：国語は県平均と比べると，正答率がやや低かった。特に「読むこと」の正答率が低かった。
　　算数は基礎は県平均より上回ったが，応用は県平均より下回った。「量と測定」の正答率は高いが「ものの数を乗法を用いて求め説明する」問題に課題がある。
○4年生：国語は県平均と同程度の正答率であった。「読むこと」は他の観点より高かったが，「書くこと」では漢字の読み書き・記述問題に課題があった。
　　算数は県平均より下回り，特に四則計算や時刻・図形領域に課題があった。
○5年生：国語では，「漢字を書く」と「漢字辞典の引き方」が県平均を下回った。「求められている情報を取り出し，適切な言葉で表現すること」に課題があり，無回答率は
　　低かったが類似外誤答が多かった。
　　算数は四則計算や「数の増え方を差で比べたり何倍かで比べたりする」項目で県平均より上回った。数量関係・図形の項目においては県平均より下回った。

【学習状況調査の結果】
○将来の夢や目標をもっている割合が，県平均に比べ高い。
○家で学校の宿題をしている割合は，100%に近い。
○ボランティア活動に参加したことのある児童の割合は，県平均よりかなり高い。
○「算数の勉強は大切だと思う」「授業の内容がよく分かる」割合が，県平均より高い。またノートの書き方を工夫している児童も県平均より高い。

○「毎日同じくらいの時刻に寝る」割合は低いが，「同じくらいの時刻に起きる」割合は高い。
○学校のきまりを守っている割合が県平均より低い。
○家で，学校の予習復習をしている割合は県平均より低い。
○学校の授業時間以外に勉強している時間は，県平均より下回った。また読書をしている時間は，少し下回っている。
○平日にゲームを2時間以上する割合が県平均より高い。

○児童会中心にあいさつ運動を行っており，児童の意識も少しずつ高まっている。
○放課後の過ごし方として「メディア」をあげた児童が，県平均より高かった。

成　果

○国語科における「漢字の読み」の力は，昨年同様に定着率が高い。
○授業のふり返りを書く取り組みを継続的にしており，文章で書いて答える問題の無回答率が高い。
○算数の基礎的な力の定着率が高く，校内研究として算数の授業改善に取り組んでいる成果と考えられる。
○地域からのサポートが手厚く，普段から地域の方とのふれあいが多いので，ボランティア活動に参加している児童の割合が高いと考えられる。
○放課後，家族と過ごす児童の割合が県平均より高く，家族と学校での出来事について話をする割合も高い。また学校でも，普段から高学年が
　低学年と関わる機会を多く設けており，上学年の自己肯定感も高いと考えられる。

課　題

○国語・算数ともに，応用問題を苦手としている傾向にある。
○長文から必要なことを落とさず読み取ることを苦手とする傾向にあり，どの教科の力を定着させるにも，まず「読む力」を伸ばす必要がある。
○どの教科も，文章で解答する問題に苦手意識があり，類似外誤答が多い。
○朝ごはんや就寝時刻など，基本的生活習慣に課題がみられる。
○テレビやスマートフォンなどのメディアに接している時間が多く，家庭でのきまりなど取り組み方に課題がある。

何を（改善すべきこと）	いつまでに（成果検証の期限）	どこまで（対象と達成目標の設定）	どのように（方策）	達成状況（12月末現在）	達成度	達成状況（年度末）	達成度	次年度への改善点・重点課題
書くこと・読むことを中心とした国語の基礎的学力の向上	毎学期末	○読むテストにおいて，学年平均80点以上を目指す。	○全学年で，1日に1回以上，必ず「書く場面」を設ける。（授業のふりかえり・わかったこと・自分の伸びなど） ○全学年で，1日に1回以上，必ず「1分間音読タイム」を設ける。（授業の最初に予習・復習の教科書音読など）	○全クラスで「書く場面」「音読タイム」を設定し，学年に応じて書くこと・読むことの力が伸びている。しかし，秋チェックの結果から，長文を読み適切に答えることに課題が見られたので，3学期は長文を読み解く力が伸びる工夫をしていきたい。	B			
図形領域を中心とした算数の基礎的学力の向上	毎学期末	○図形領域のテストにおいて，学年平均80点以上を目指す。	○全学年，毎週木曜日に家庭学習として「図形プリント」を出す。（全学年までの復習や，苦手分野のくりかえし練習として） ○校内研究で，図形領域を中心とした研究授業を行い，授業改善に努める。	○全職員で図形領域の授業改善を行っている。また，毎週木曜日の図形プリントも効果が少しずつ出ている。しかし秋チェックの結果から，図形の意味や作図に課題があると分かったので，図形の復習問題だけでなく応用的な問題にも取り組ませるようにしたい。	C			
充実した家庭学習の定着とメディア利用	毎学期末	○家庭学習時間（学年×10分）の定着 ○全児童に，メディアコントロールを意識させ，家庭学習に意欲的に取り組むことができるようにする。	○「基礎学力の定着＋自主学習」の学習スタイルを確立する。 ○学期に1回のメディアコントロール週間について，児童に事前・事後指導を行う。また，保護者との連携も工夫して行う。 ○12月に，保護者と4～6年児童を対象とした「メディアとの関わり方」の講演会を開く。	○各クラスで家庭学習の指導に力を入れ、自主学習をする児童も出てきている。メディアコントロール週間も定着してきて、児童も保護者も意識して取り組んでいる。一方で、アンケート結果などからスマホ・動画との関わりには大きな課題があり、今後は児童自身がメディアコントロールできるカを身に付けさせたい。	C			

※達成度　「S：目標を大きく上回った（100%超）」「A：目標を十分達成できた（85%以上100%未満）」「B：目標を概ね達成できた（70%以上85%未満）
「C：目標をある程度達成できた（50%以上70%未満）」「D：目標をあまり達成できなかった（30%以上50%未満）」「E：目標を達成できなかった（30%未

小中連携の取組

○学力向上を目指し，『家庭学習100%』『チャイム同時スタート』『学び合い』の3点に重点をおいて指導する。

○生徒指導として『ことばづかい』と『きれいな教室』を中心に，落ち着いた学習環境づくりに取り組む。

保護者・地域へ理解・協力を求めること

○早寝・早起き・朝ごはんなど，基本的生活習慣の定着をお願いする。
○メディアコントロール週間は，目的意識をもって取り組んでいただく。
○保護者・児童を対象としたメディア講演会への参加をお願いする。
○学級懇談で自主学習の取り組み方について共通理解を図ったり，メディアとの関わり方について話し合ったりする。年2回の地区懇談会でも同様の話し合いをする。